学科会行事に参加して…

学科会の行事は学科を問わず参加できます。

国文学科会

「文学講座―日本の美の再発見」
日本の造形美、デザインの源泉

趙 慶姫先生

国文講座には10年以上通っている。いつも新しい発見があって楽しい。

今回は、趙先生がデザインの源泉としての日本の美にアプローチ。

スライドで琳派の俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一の「風神雷神の図屏風」3作品の違いの説明。

琳派の先人の画風を慕い、模写を通して新たな創造的なコピー作成がデザイン的。

デザインの目的は用と美。その1つの精華が茶の湯。喫茶をデザインして生活の中の美を演出する。

日本人は桃山時代からデザイナー！興味深い参考文献もだが、何より美術館に行って本物が見たくなった。

45E　磯部　典子（川村）

大学院で学びを深める娘の姿に刺激をうけ、文学講座に参加をして早4年、趙先生の講義は私に新たな気づきを与えてくださいました。

以前、日本の気候や地形が日本人の共感力や受容力に深く関わっているという話をテレビで見て目から鱗が落ちたような思いでしたが、西洋の文化や芸術における思想や空間の捉え方の違いに繋がり、好奇心が刺激されわくわくしました。

更に産業革命後という文化とは対極にあるような出来事から西洋の物事の本質をみるデザインという思想が生まれてきたことに地理、歴史、芸術、経済すべてはつながっている面白さを感じました。

平5J　関　美緒



英文学科会

「英文講読講座」

山田美穂子先生

英文講読講座に初めて参加しました。短大卒業以来、英語に無縁の生活を送ってきたので、勇気を振り絞っての応募でした。

『赤毛のアン』シリーズは小学生の高学年の頃に読んだきりでしたが、もう大好きでした。特に『アンの青春』が好きで、早く16歳になりたいと憧れていました。その16歳はとっくに過ぎてしまい、半世紀以上経て久しぶりに村岡花子訳を読み返して、子どもの頃の瑞々しい感覚が蘇ってきたのは思いがけない喜びでした。

講座の初日は、モンゴメリーの生い立ち、時代の気分、第一次世界大戦参戦に至るカナダの時代背景を詳しく教えていただき『アンの青春』を読んでいく知識が深まりました。第一次世界大戦では近代兵器が使われ戦争の形態が変わったこと、日英同盟が結ばれて2年後には日露戦争が起きたことも知り大変勉強になりました。

講座は山田先生の深みのある温かい声で進行していきます。音読を聴き取れたらアヴォンリーの羊歯の小径を揺らす風の音も聞こえてきそうですが…現実はテキストを目で追うのが精一杯で（英語は難しい）としみじみ思います。

46L　川尻百合子（永江）



童友会

「大人の工作」
パステルで描く世界

中畝治子先生

今回の童友会企画へは、会報を見て内容に興味があり申込みすることにしました。当日は思っていたより大勢が参加していて、にぎわっている印象でした。しかし制作がはじまるとそれぞれ集中して取り組み、出来上がった作品は同じ材料、同じテーマなのに全員全く違っていて興味深かったです。先生が支援活動をされている医療的ケア児について、イタリアのレッジョ・エミリアの教育について、アートと幼児教育について、制作の合間の全てのお話がとても素敵でした。最後の自己紹介では、皆さんそれぞれに日々大切に過ごされていることがわかりとてもよかったです。

学科会に参加したことで講師の先生、同窓生の皆さん、当時の自分、作品制作を通して今の自分にも出会うことができました。現役時代をともに過ごした後輩との再会もあり、改めて青山で学んだ大切な時間に想いを馳せることができました。また参加したいと思える充実した時間でした。

平4A　平6C　平7CS　杉田　三奈



